

令和8年1月6日(火)

令和8年度 学校経営方針 (案)

1 はじめに

生あることが、すでに十分すばらしいこと。そして「よりよく生きてほしいと願う」ここに教育があると考えます。

教育基本法では、教育の最大の目的を「人格の完成」としています。そのためには学習指導要領が目指す「生きる力」の育成が必要であり、第4期教育振興計画・第4次浜松市教育総合計画を受けながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等により、子供たちに持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成していきます。

2 学校課題

昨年度（令和7年度）の課題分析より、次のことが浮き彫りとなりました。

- | |
|---|
| <p>① 主体性と粘り強く挑戦し続けることに関して</p> <ul style="list-style-type: none">・自ら目標を立てて学習し、計画的に学習に取り組むことに課題がある。・粘り強く取り組んだり、失敗を恐れて挑戦したりすることができない。 <p>② 基礎的な学習と生活習慣に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎学力の定着に課題がある。・基本的な生活習慣(挨拶等)に課題がある。 <p>③ 引北らしさを生かした教育活動の充実に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学校行事、体験的活動が多く、児童生徒の生活に余裕がないという課題がある。・「たくましく生きる」児童生徒を育成するための異学年集団活動が十分でない。 |
|---|

ここから、改めて「主体性をどう育むか」を考えるとともに、児童生徒・教職員共に「多忙感により、振り返りや挑戦の余裕がない」状況をどう改善するかが浮き彫りとなりました。

令和8年度は、この課題解決のために、どの教育活動を充実させるのか考えるとともに、今一度教育課程の「スクラップ・アンド・ビルド」を行い、精神的・時間的な「余白」を創出します。その余白においてこそ、児童生徒は失敗を恐れずに挑戦でき、自律的な学習習慣や生活習慣が醸成されると考えます。さらにこの「余白」は、教職員のウェルビーイングを確保し、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対してより質の高い学校教育を行うことにつながります。

学校は、子供たちにとっても教職員にとっても「心理的安全性」が高い場所でなければなりません。互いの存在を認め合う温かな基盤の上で心豊かに、そして予測困難な社会をたくましく生き抜く児童・生徒を育成します。

令和8年度 引佐北部小中学校グランドデザイン(案)

【はままつの教育理念】「描く夢や未来の実現」

【コンセプト】「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」

【目指すことものの姿】

「自分らしさを大切にすることも」「他者と協働し、主体的に行動できることも」「自己調整しながら、粘り強く取り組むことも」



【学校の理念】 みんなでつくる「みさと」の学校

【学校教育目標】 心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成

	「心豊かに生きる」姿	「たくましく生きる」姿
本校の捉え	○ 自分を大切にし、他者を認め、協働できる	○ 自己決定したことに自ら取り組み、自己調整しながら挑戦し続ける
高等部	○ 自分のよさに気づき、大切にできる	○ やりたいことやなりたい自分について考え、物事に取り組むことができる
中等部	◇ 他者の考えを認め、協働することができる	◇ 自らの取組を振り返り、調整しながら挑戦し続けることができる
初等部	○ 自分のよさを見つけることができる ◇ 周りの人と協力することができる	○ 好きなことや興味を持ったことに取り組むことができる ◇ 自分に合っためあてを立て、挑戦することができる

【令和8年度の学校運営の重点】

①児童・生徒の主体性の育成

- 自己決定と自己調整を大切にした教育活動の推進
- 「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上



②「引北らしさ」を生かした教育活動の充実

- 付けたい力と小中の接続を意識した「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」の実践
- 各ブロックにおける異年齢集団活動の充実と日常化

③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実
- 基礎学力の定着
- 効果的なICTの活用
- 複式学級における運営と指導力向上のための研修推進

安心できる居場所づくり

- 児童・生徒支援における共通理解、個に応じた支援の充実、教育相談体制の充実
- 道徳教育、特別活動の充実
- 就学支援委員会、発達支援教室、いじめ対策委員会の充実

社会に開かれた教育課程の推進

- 学校運営協議会や保護者との信頼・協働
- 地域での学び・地域の方による学習支援の充実

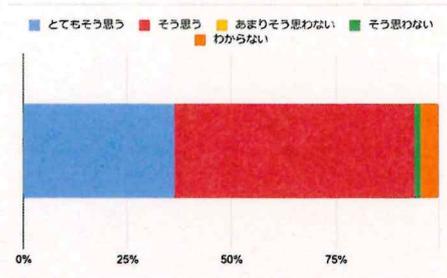
【児童生徒用】

2 学期 学校評価アンケート（全児童生徒）

※言葉は高等部のものです。

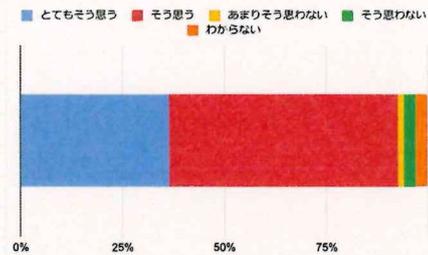
1. それぞれの人の思いや考えを認め合うことができた。

とてもそう思う	36.36%	24
そう思う	57.58%	38
あまりそう思わない	0.00%	0
そう思わない	1.52%	1
わからない	4.55%	3



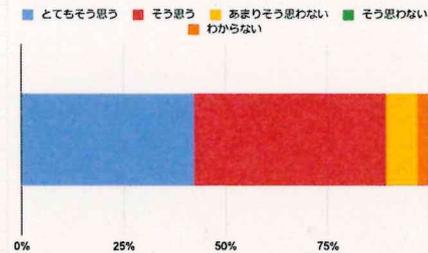
2. 夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができた。

とてもそう思う	36.36%	24
そう思う	56.06%	37
あまりそう思わない	1.52%	1
そう思わない	3.03%	2
わからない	3.03%	2



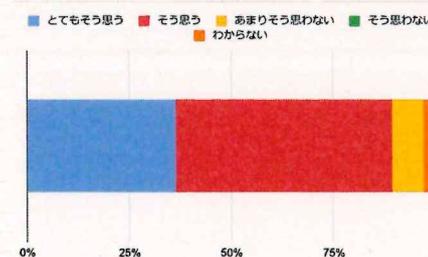
3. 自ら目標を立て、計画的に取り組むことができた。

とてもそう思う	42.42%	28
そう思う	46.97%	31
あまりそう思わない	7.58%	5
そう思わない	0.00%	0
わからない	3.03%	2



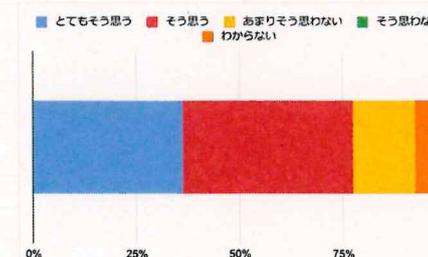
4. 夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができた。

とてもそう思う	36.36%	24
そう思う	53.03%	35
あまりそう思わない	7.58%	5
そう思わない	0.00%	0
わからない	3.03%	2



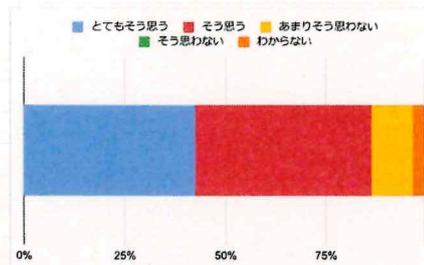
5. 学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができた。

とてもそう思う	36.36%	24
そう思う	40.91%	27
あまりそう思わない	15.15%	10
そう思わない	0.00%	0
わからない	7.58%	5



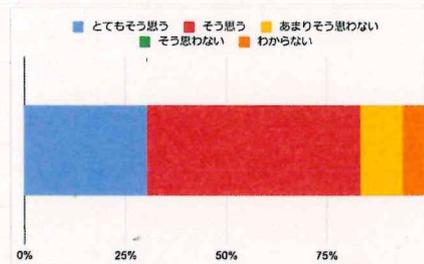
6. 縦割り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝えあったりしている。

とてもそう思う	42.42%	28
そう思う	43.94%	29
あまりそう思わない	10.61%	7
そう思わない	0.00%	0
わからない	3.03%	2



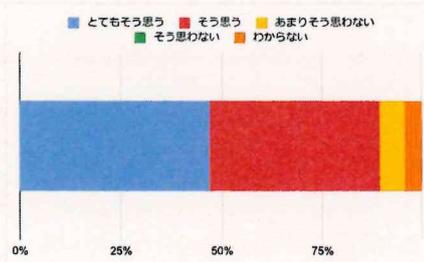
7. 自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができた。

とてもそう思う	30.30%	20
そう思う	53.03%	35
あまりそう思わない	10.61%	7
そう思わない	0.00%	0
わからない	6.06%	4



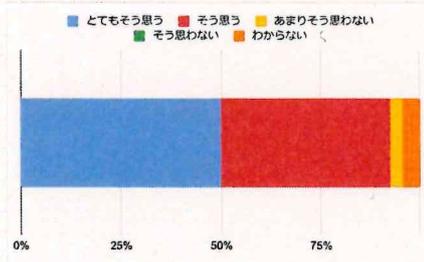
8. 様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができた。

とてもそう思う	46.97%	31
そう思う	42.42%	28
あまりそう思わない	6.06%	4
そう思わない	0.00%	0
わからない	4.55%	3



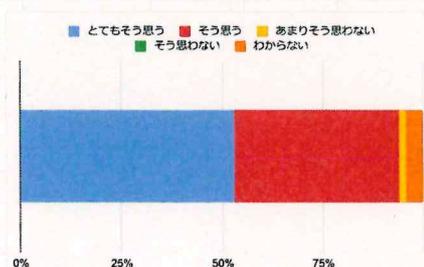
9. 先生たちは、自分のことを分かってくれている。

とてもそう思う	50.00%	33
そう思う	42.42%	28
あまりそう思わない	3.03%	2
そう思わない	0.00%	0
わからない	4.55%	3



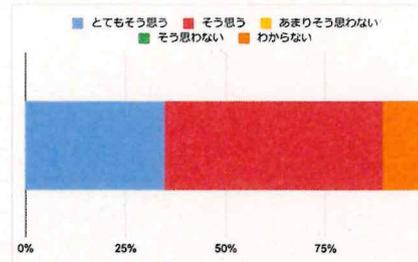
10. 「いじめ」を許さず、みんなが安心して過ごせるように考えて行動できた。

とてもそう思う	53.03%	35
そう思う	40.91%	27
あまりそう思わない	1.52%	1
そう思わない	0.00%	0
わからない	4.55%	3



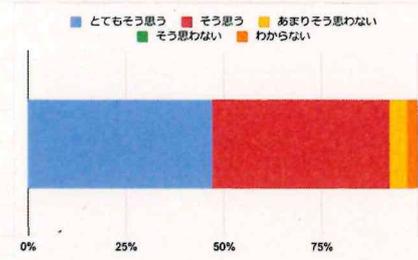
11. 悩みがあるときはアンケートや教育相談などで、先生に相談しやすく安心できた。

とてもそう思う	34.85%	23
そう思う	54.55%	36
あまりそう思わない	0.00%	0
そう思わない	0.00%	0
わからない	10.61%	7



12. 地域の方から学んだり、共に活動したりして、温かい関係を築いている。

とてもそう思う	46.97%	31
そう思う	45.45%	30
あまりそう思わない	4.55%	3
そう思わない	0.00%	0
わからない	3.03%	2



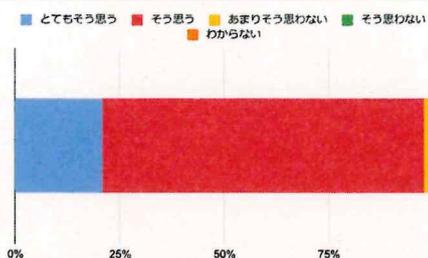
【保護者用】

2 学期 学校評価アンケート（保護者全体）

※言葉は高等部のもの

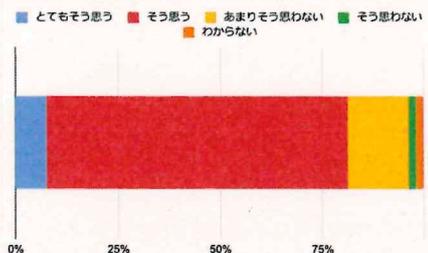
1. お子さんは、周りの人の思いや考えを認め合うことができている。

とてもそう思う	20.75%	11
そう思う	77.36%	41
あまりそう思わない	1.89%	1
そう思わない	0.00%	0
わからない	0.00%	0



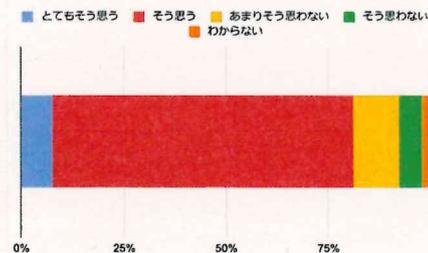
2. お子さんは、夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができている。

とてもそう思う	7.55%	4
そう思う	73.58%	39
あまりそう思わない	15.09%	8
そう思わない	1.89%	1
わからない	1.89%	1



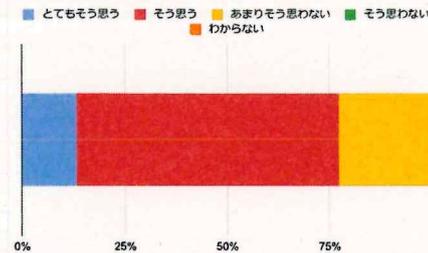
3. お子さんは、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができている。

とてもそう思う	7.55%	4
そう思う	73.58%	39
あまりそう思わない	11.32%	6
そう思わない	5.66%	3
わからない	1.89%	1



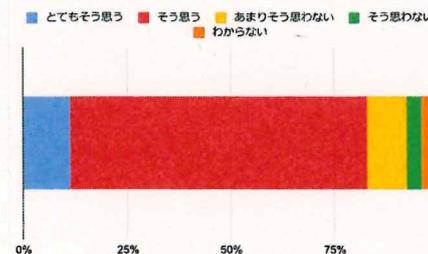
4. お子さんは、夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができている。

とてもそう思う	13.21%	7
そう思う	64.15%	34
あまりそう思わない	22.64%	12
そう思わない	0.00%	0
わからない	0.00%	0



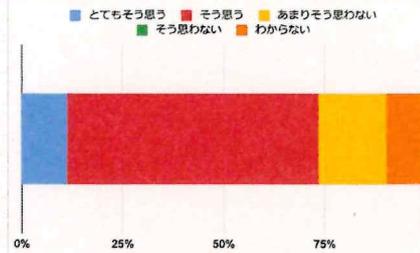
5. お子さんは、学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができている。

とてもそう思う	11.32%	6
そう思う	71.70%	38
あまりそう思わない	9.43%	5
そう思わない	3.77%	2
わからない	3.77%	2



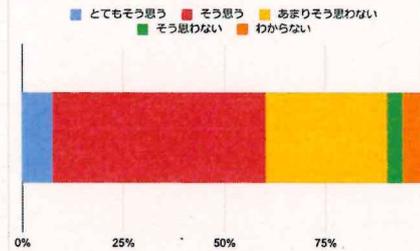
6. お子さんは、縦割り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝えあったりできている。

とてもそう思う	11.32%	6
そう思う	62.26%	33
あまりそう思わない	16.98%	9
そう思わない	0.00%	0
わからない	9.43%	5



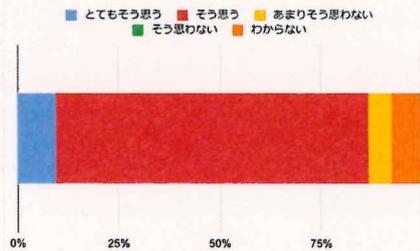
7. お子さんは、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができている。

とてもそう思う	7.55%	4
そう思う	52.83%	28
あまりそう思わない	30.19%	16
そう思わない	3.77%	2
わからない	5.66%	3



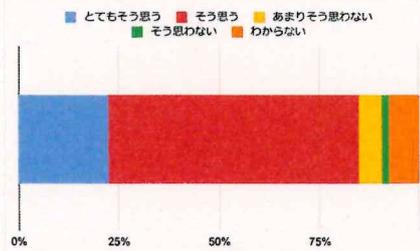
8. お子さんは、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができている。

とてもそう思う	9.43%	5
そう思う	77.36%	41
あまりそう思わない	5.66%	3
そう思わない	0.00%	0
わからない	7.55%	4



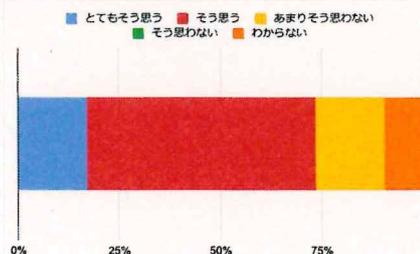
9. 学校は、一人ひとりの子供のことを理解し、個に応じた支援を行うように努めている。

とてもそう思う	22.64%	12
そう思う	62.26%	33
あまりそう思わない	5.66%	3
そう思わない	1.89%	1
わからない	7.55%	4



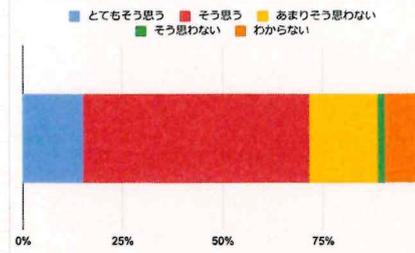
10. 学校はいじめを生まない環境をつくり、誰もが安心できる居場所づくりに努めている。

とてもそう思う	16.98%	9
そう思う	56.60%	30
あまりそう思わない	16.98%	9
そう思わない	0.00%	0
わからない	9.43%	5



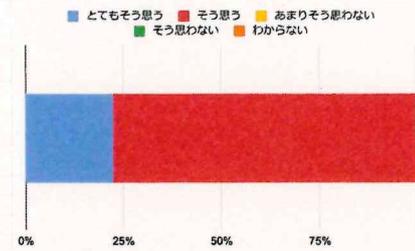
11. 学校は、児童生徒が困ったときや悩みがあるとき、相談しやすく安心できた。

とてもそう思う	15.09%	8
そう思う	56.60%	30
あまりそう思わない	16.98%	9
そう思わない	1.89%	1
わからない	9.43%	5



12. 学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。

とてもそう思う	22.64%	12
そう思う	77.36%	41
あまりそう思わない	0.00%	0
そう思わない	0.00%	0
わからない	0.00%	0

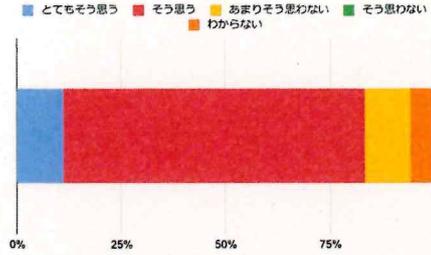


【職員用】

2 学期 学校評価アンケート

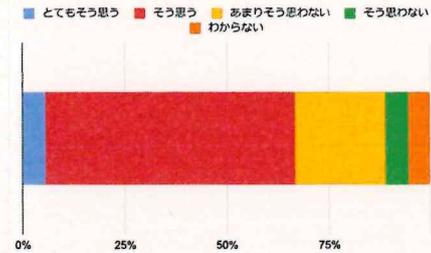
1. 児童生徒は、自分も他人も大切にし、互いに認め合うことができている。

とてもそう思う	11.11%	2
そう思う	72.22%	13
あまりそう思わない	11.11%	2
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



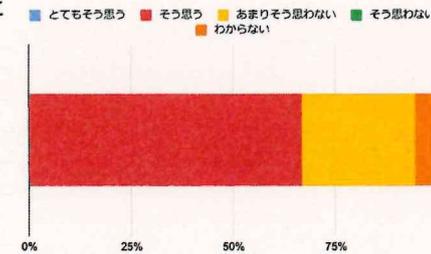
2. 児童生徒は、自分も他人も大切にし、互いに高め合うことができている。

とてもそう思う	5.56%	1
そう思う	61.11%	11
あまりそう思わない	22.22%	4
そう思わない	5.56%	1
わからない	5.56%	1



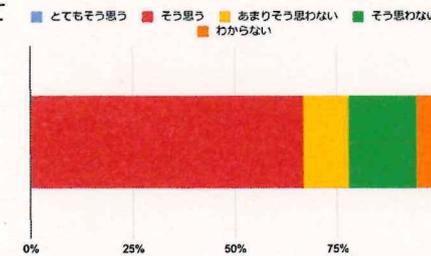
3. 児童生徒は、自分に合った目標を立て、主体的に取り組むことができている。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	66.67%	12
あまりそう思わない	27.78%	5
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



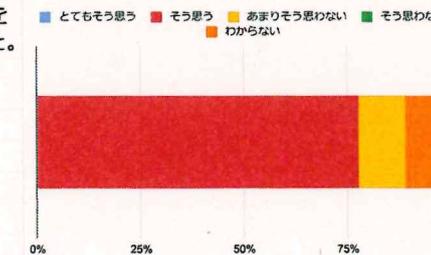
4. 児童生徒は、夢や目標に向かって、挑戦し続けることができている。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	66.67%	12
あまりそう思わない	11.11%	2
そう思わない	16.67%	3
わからない	5.56%	1



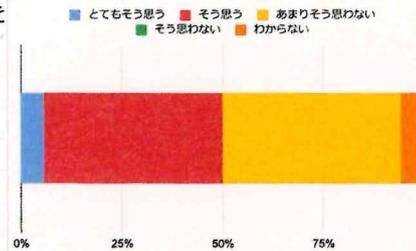
5-④. 児童生徒が「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組めるように授業や諸活動を工夫した。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	77.78%	14
あまりそう思わない	11.11%	2
そう思わない	0.00%	0
わからない	11.11%	2



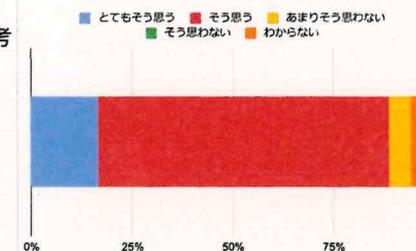
5-②. 児童生徒は、「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができている。

とてもそう思う	5.56%	1
そう思う	44.44%	8
あまりそう思わない	44.44%	8
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



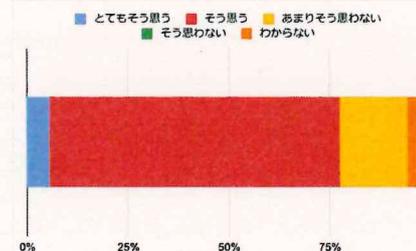
6. 児童生徒は縦割り活動や遊びの中で、それぞれの学年に応じて、自分の役割や立場を自覚して、他の学年の子と話し合ったり、考えを伝えあったりすることができている。

とてもそう思う	16.67%	3
そう思う	72.22%	13
あまりそう思わない	5.56%	1
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



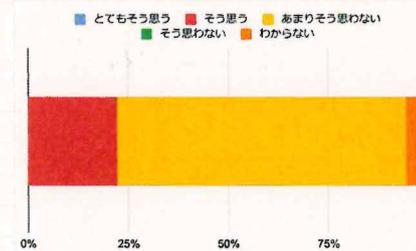
7-①. 児童生徒が個別最適な学びを進められるように授業改善に取り組んだ。

とてもそう思う	5.56%	1
そう思う	72.22%	13
あまりそう思わない	16.67%	3
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



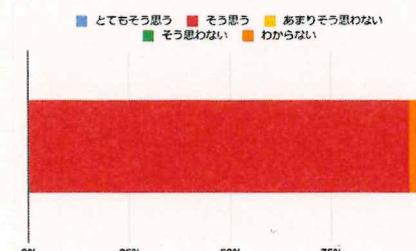
7-②. 児童生徒は、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に取り組むことができている。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	22.22%	4
あまりそう思わない	72.22%	13
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



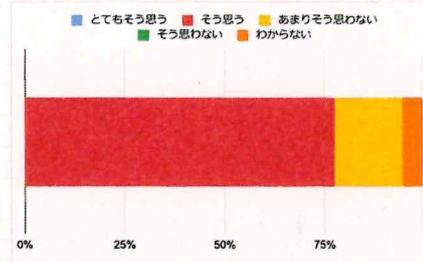
8-①. 児童生徒が協働的な学びを進められるように授業改善に取り組んだ。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	94.44%	17
あまりそう思わない	0.00%	0
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



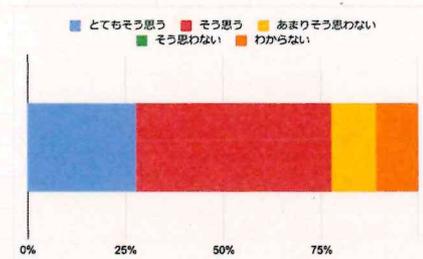
8-②. 児童生徒は、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができる。

とてもそう思う	0.00%	0
そう思う	77.78%	14
あまりそう思わない	16.67%	3
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



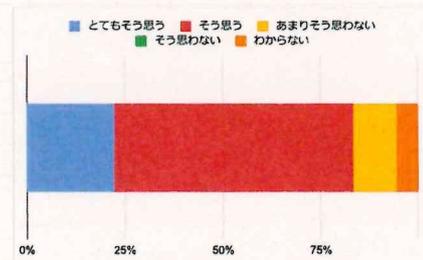
9. 学校は、一人ひとりの子供のことを理解し、個に応じた支援を行うよう努めている。

とてもそう思う	27.78%	5
そう思う	50.00%	9
あまりそう思わない	11.11%	2
そう思わない	0.00%	0
わからない	11.11%	2



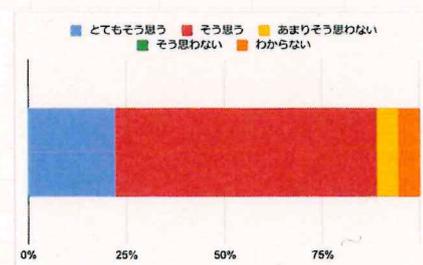
10. 学校は、いじめを生まない環境をつくり、誰もが安心できる居場所づくりに努めている。

とてもそう思う	22.22%	4
そう思う	61.11%	11
あまりそう思わない	11.11%	2
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



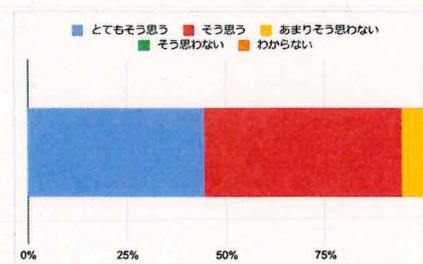
11. 児童生徒と話したり、様子や変化を家庭と共有したりして、子供理解に努めている。

とてもそう思う	22.22%	4
そう思う	66.67%	12
あまりそう思わない	5.56%	1
そう思わない	0.00%	0
わからない	5.56%	1



12. 学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。

とてもそう思う	44.44%	8
そう思う	50.00%	9
あまりそう思わない	5.56%	1
そう思わない	0.00%	0
わからない	0.00%	0



13. 今年度の取り組みで、よかったと思うことがありましたら、お書きください。

- ・運動会が室内でも開催可能だということが分かったこと。
- ・運動会の体育館での開催
- ・それぞれその子にあった支援が必要なときに、学校全体の協力体制で行えたことは、とても助かりました。
- ・運動会の体育館開催（中学生は、物足りなっただと思いましたが、実行委員会の話し合いからその可能性がわかっていたら、競技なども変わる可能性があったと思います。）
- ・1～8年の前後期。
- ・模擬会社きりやまによる夏のイベント（昼休みの輪投げ、カブトムシ）

- ・運動会を体育館で実施したこと。
- ・地域と連携した学習が多く、学習を通して地域の良さを知る機会が多い
- ・中学校のふるさと科の活動が、徐々に生徒主体になってきていると思います。
- ・ブロック集会等で、他の学年と協働的に関わったり、主体的にスピーチをしたりして良かったと思います。
- ・地域の方や幼稚園と行事や授業で交流が多く、連携ができたと思います
- ・ブログがこまめに更新されていて学校の様子が伝わったと思います。
- ・運動会について、みんなで協議し雨対応ができたこと。
- ・朝活動に、ブロック集会で異学年交流をしたこと。異学年交流のよさが表れていたと思います。
- ・研修旅行と1～5年の校外学習を重ねて行ったこと。
- ・縦割り掃除：中・高等部が縦割り班で掃除をしている。小中一貫校のよさが生かされている活動でよい。そうきんをバケツで洗うやり方も定着してよい。
- ・人間関係づくりプログラム：11月に高等部が行ったが、学級委員がリーダーとなり、会の進め方も自分たちで考え主体的な活動となった。
- ・初等部のブロック会（縦割り班での話し合いや遊びの活動）
- ・全校での話し合い活動（まるごと会議）
- ・体育館での運動会。
- ・運動会が体育館開催になったが、どの子も自分の思いや個性を十分に発揮して楽しむことができた。
- ・みさとパビリオンでは、発表や体験を自分たちでやってみたいことを表すことができた。
- ・小学生を中心に、地域とよく関わっていて、それが本校の強みだと思う。課題もあるだろうが、今後も続けていきたいことの1つだと思う。今は、どちらかという決まった人たちだけの交流や関わりだが、もっと幅広く多くの人々と関わったり接したりすることができるようになるとうれしいと思う。
- ・運動会の体育館実施。何事も、やれる中でどのくらい工夫して最高のものに近づけていくかが大切だと思う。そして、ピンチの時こそ、様々な角度から物事を見て、道を探り出せる、そんな集団でありたいと思う。
- ・きりやま。「こうしていこう！」と具体的な案や意見を大人も子供も出し合い、苦労や失敗を楽しみながら、積極的に取り組む姿が昨年以上に多くみられ、中学生も担当の先生方も生き生きして、頼もしく感じた。「何事もやるからには全力で楽しむ！」がいいと思う。まさにその言葉を表した姿だ。小学生たちにも、いっそう憧れの存在となるに違いない。
- ・中学生の合唱発表。中学生たちの年齢で、みんなで熱くなれるものがある、1つになれるものがある、ということが人として成長する中で大切なことの1つだと思う。
- ・総合文化部。人数の都合で今年度は人形劇を断念したと聞いたが、影絵という新しい分野に挑戦し、パビリオンで発表できたことは大きな自信や達成感につながっているのではないかなと思う。部活動で味わえること、学べることを我々指導者側も意識して、部活動指導していきたい。
- ・夏の模擬授業。とにかく楽しかった！授業は楽しい、わかった！と子ども自身が実感できることが大事だとよく言われるが、本当にそうだと思う。子どもの気持ちや味を味わうことで、自分の授業や教師としての姿勢を子ども目線で振り返って方向修正することができると思う。そのときに、お互いに、正直にいい点もこれはちょっと...という点も言い合える教師集団でありたいと思う。
- ・2、3年生のグループ給食。コロナ以来、前向き給食が普通になってしまったけれど、班で机を合わせてご飯を食べる姿がいいなと思った。
- ・パビリオンの発表の仕方。学んできたことの発表、説明に加え、体験活動を取り入れたこと。

14. 本校をよりよくしていくために、お気付きの点や御意見がありましたら、お書きください。

- ・学校行事の充実化と生徒が嫌々代表として活躍する場ではなく、楽しみながら活躍できる機会を提供したい。
- ・小中ともに共通理解のうえ、児童生徒と関わっていくことが大切だと思います。
- ・学級活動もしくは、教科の中で、ゆっくり時間をかけて自己理解する時間や目標、目標達成するための行動を考える時間を設定し、結果に対して振り返る時間が必要だと思います。
- ・子供たちの活動にどこまで求めるのか「広く浅く：経験重視なのか」「狭く深く：追究活動重視なのか」。学年によって異なるかもしれませんが、共通理解して学校生活を行わせたい。
- ・引佐地域よりも外の地域（浜松市もしくは、静岡県）にも目を向ける活動が必要だと思います。とくに中学生には、興味のあることや就きたい仕事に関する職業講話や体験があるといいと思います。
- ・進路学習として、高校の体験授業を入れてもいいと思います。
- ・小学生と中学生が、少人数のグループを組んで、課題解決するような取り組み。
- ・朝活動の見直し。朝読書の目的や目標を子供たちが理解して取り組む。週1回自分で行う内容を決めて取り組む。

- ・ 1 教育課程特例校の申請内容の見直しと改善を早急に行う。
- ・ 2 グランドデザインを基に、小・中や各ブロックにおける教育活動でのねらいや方向性を協議する。
- ・ 3 教育課程を素案の段階から小・中や各ブロックおよびグループで協議し、無理や無駄のない年間の流れを教職員全員の総意で編成する。
- ・ 4 さまざまな問題を抱える子の割合が大きい中ではあるが、社会生活・集団生活を送るうえでの基本的な生活習慣定着や学力の保証に関わる基本的な学習習慣定着の徹底を図る。
 - ・ 本校の存続を目指して、（時代と逆行しますが）あえて、行事や体験的活動を充実させていくことを検討していくこともアリかなと思います。児童生徒数が減る中で、本校の強みをアピールしていくための方法の一つとしての、一意見です。
 - ・ 登下校や給食当番等、大きな声であいさつができるとうい。
 - ・ 完走大会の今後について話し合っておくとよいと思いました（開催について、開催するならコースについて、水はけが悪いグランド環境であること、今回のような獣対策について等）。
 - ・ 水曜日に部活がなくなったので、放課後にブロック会の日を設定して共通理解する機会を月1くらいで設定するとういと思いました。（その都度、相談してはいますが）。
 - ・ 来年度も、研修旅行と校外学習を重ねて行うのであれば、校外学習の提案は、教務からする方がよいかもしれません。
 - ・ 小中一貫校のよさが生かせる活動が増えるとうい。
 - ・ 挨拶の声、もう少し出るとよい。
 - ・ 指導はしているが、まだ廊下を走る子が多い。安全面を考えて、右側を歩くことを意識させたい。
 - ・ 本年度も実施しているが、他学年との授業・活動を組むと、上級生はリーダーとして頑張り、下級生も上級生から学ぶことが多いので、計画的に組めるとよいと思う。
 - ・ みさと会や専門委員会の活動で、潤いのある学校生活をつくる活動がもっと充実させるとよいと思う。（イベントなど）
 - ・ 教科やふるさと科の授業で、小学生と中学生の交流がもっとあるとういと思う。
 - ・ 生徒指導の基本的な流れや指導のコツなどを研修するとよいと思う。
 - ・ 臨機応変に何事にも対応できるしなやかな集団でありたい。
 - ・ 地域との連携が形骸化しているように思います。学校からの地域への情報発信をもっと積極的に行えば、地域からももっと情報が得られるようになると思います。

本校の主要な強味

アンケート結果から考察すると「児童生徒の相互理解と安心感」「地域との強力な連携」「小中高一貫校を活かした縦割り活動」という3つの主要な強みがあります。

1. 児童生徒の相互理解と安心できる環境

学校全体として、他者の考えを受け入れ、認め合う姿勢が非常に強く根付いています。

- ・ 高い肯定感： 高等部では100%、中等部でも96%の生徒が「他者の思いや考えを認め合えた（受け入れることができた）」と回答しています。
- ・ 安心・安全： すべての部門において、「いじめ」を許さず、みんなが安心して過ごせるように考えて行動できているという項目で、90%以上の生徒が肯定的な回答を示しています。
- ・ 自己・他者肯定： 初等部においても、86.36%の児童が自分や周りの人の良さを見つけることができたと感じています。

2. 地域連携・協働活動

地域社会との結びつきは、この学校の教育活動において「最大の強み」と位置付けられています。

- ・ 全方位からの高評価： 学校が地域と連携して教育活動を行っている点について、保護者（初等部・中等部・高等部すべて）および職員のほぼ100%が肯定的に評価しています。
- ・ 具体的な取り組み： 「引佐丸ごと会議」で地域の人と将来の夢を語り合ったり、「いなほく☆まるごと会議」や「ふるさと科」などの体験活動を通じて、地域との温かい関係が築かれています。

3. 縦割り活動の積極的な実施

小中高一貫校という特性を最大限に活かし、学年を越えた交流が円滑に行われています。

- ・ 異学年交流の質： 高等部生徒の100%が「縦割り活動で自分の役割や立場を自覚して交流できている」と回答しており、職員からも「縦割り掃除」や「ブロック集会」などを通じた交流の良さが評価されています。
- ・ 主体的な関わり： 初等部の児童も他学年との交流に非常に積極的であり、話し合いや考えの伝達がスムーズに行われています。

総括

これらの強みは、「地域との強固な連携」と「異学年交流を活かした温かい人間関係・相互理解」という強固な基盤を作り出しており、生徒の成長と安心感に直結しています。学校側は、これらを今後も継続・強化すべき重要な点であると認識しています。

本校の主要な課題

1. 意欲・主体性・挑戦に関する課題

児童生徒の学習への主体性、目標設定能力、および困難に立ち向かう粘り強さの不足が最大の課題です。

課題の要点	根拠となる具体的な状況
目標設定と自己調整能力の欠如	職員の72.22%が、児童生徒が「自ら目標を立てて学習し、計画的に課題解決に取り組むことができていない」と回答しています。高等部でも生徒の自己評価と教員評価に認識のズレがあります。
挑戦意欲と粘り強さの不足	中等部職員は、生徒に「根性がない(粘り強さがない)」、「向上心がなく現状維持で十分」、「失敗することを気にしすぎており、挑戦ができない」という認識を強く持っています。初等部でも「少し難しい課題に対して逃げる傾向がある」と指摘されています。
活動への主体性の低さ	児童生徒が「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組んでいるかについて、職員の44.44%が否定的に回答しています。中等部では、自分から積極的に行動したり発言したりする姿が見られないという課題があります。

2. 基礎的な学習と習慣の課題

学力の土台となる基礎学習習慣の定着や、基本的な生活態度の徹底が必要です。

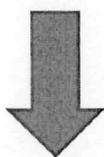
課題の要点	根拠となる具体的な状況
基礎学力・学習習慣の未定着	基礎学力が身につけていない児童が多いという認識や、基礎的な漢字の書き取りや計算のドリル的な活動を嫌がる子が多いという指摘があります。
基本的な生活態度の欠如	挨拶が元気よくできない、特に小学校では挨拶が返ってこないなど、声が小さくなった子が目立つという指摘があります。廊下を走る子が多いことや、提出物を丁寧に書く習慣が身につけていないことも課題です。

3. 学校運営・制度に関する課題

小中一貫校としての行事や連携のあり方、外部への視野の広げ方に課題があります。

課題の要点	根拠となる具体的な状況
行事負担と内容の精査	学校行事や体験的活動が多く、児童生徒や職員の毎日の生活に余裕がないため、内容の**厳選(精選)**を行い、負担感のない範囲で行う必要

	があるという意見があります。また、生徒から完走大会の廃止や距離短縮の要望が出ています。
小中一貫の活動の偏り	全校生徒が関わるイベントが少ないことや、縦割り活動において、一部の学年(高等部)が中心となりすぎて、低学年が「小間使いのようにやらされていた」と感じる場面があったという保護者意見があります。
外部連携・視野拡大の必要性	地域全体が外の世界と接する機会が少ないため、外部の方の話を聞く機会を増やし、引佐地域だけでなく外の地域(浜松市や静岡県)にも目を向ける活動が必要であるという意見があります。



本校の課題を簡潔にまとめると

1 主体性と粘り強く挑戦し続けることに関して

- ・自ら目標を立てて学習し、計画的に学習に取り組むことに課題がある。
- ・粘り強く取り組んだり、失敗を恐れて挑戦ができないことに課題がある。

2 基礎的な学習と生活習慣に関して

- ・基礎学力の定着に課題がある。
- ・基本的な生活習慣(挨拶等)に課題がある。

3 引北らしさを生かした教育活動の充実に関する課題

- ・学校行事、体験的活動が多く、児童生徒の生活に余裕がないという課題がある。
- ・「たくましく生きる」を育成するための異学年集団。